
現場で働く教員・指導医のための 医学教育学プログラム—基礎編



2026年度版ハンドブック

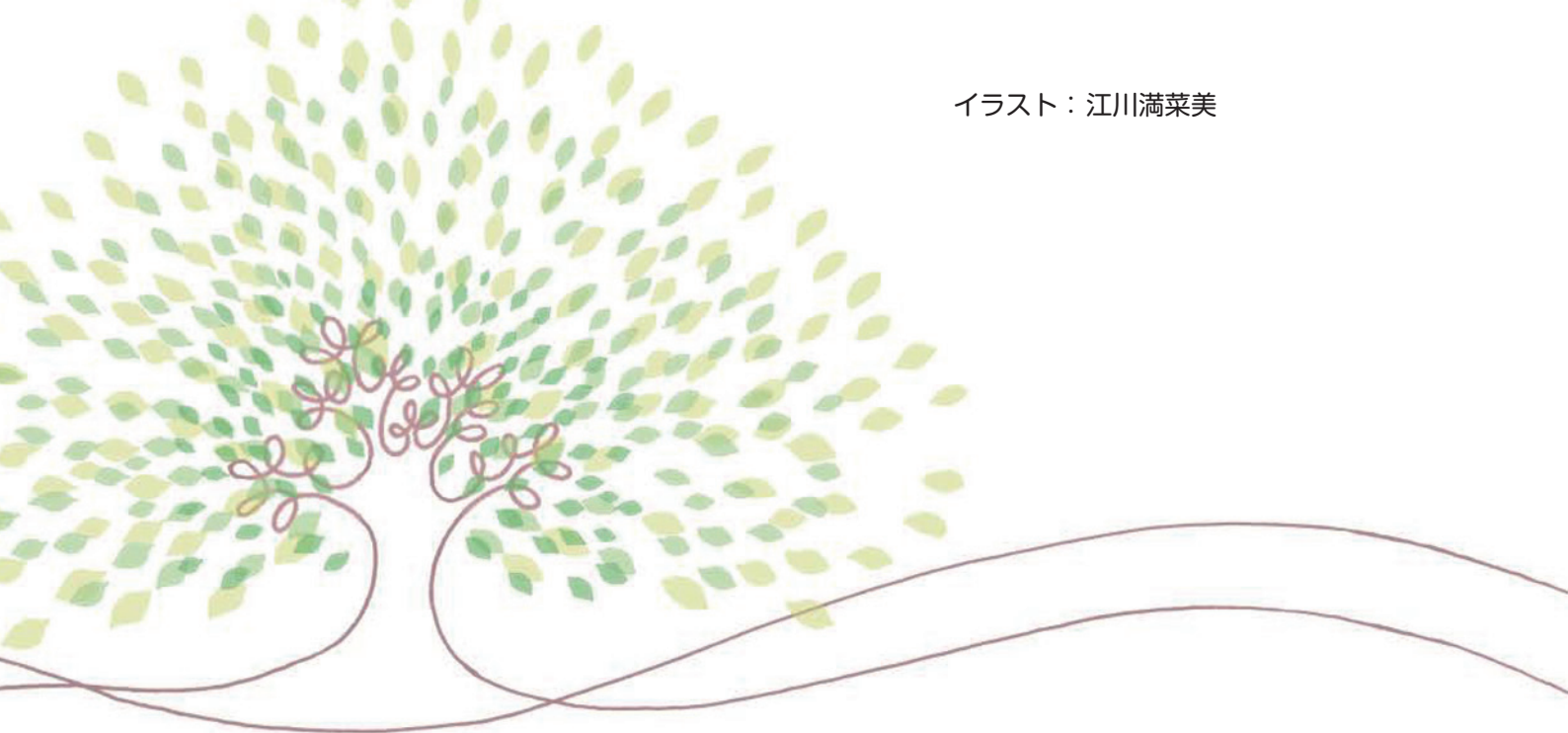


目次



| | |
|---|----|
| ● ごあいさつ | 02 |
| ● 本プログラムの思想・哲学 | 03 |
| ● 本プログラムが考える 「よい医学教育者」に求められる能力 | 04 |
| ● 医学教育学カリキュラム ユニット一覧 | 05 |
| ● 本プログラムにおける基本的な学習・教育法 | 07 |
| ● ラーニングマネジメントシステム 『Google classroom』について | 07 |
| ● 受講生の声と授業風景 | 08 |
| ● 参加体験型授業・Web討論型授業 年間カレンダー | 09 |
| ● 参加体験型授業・Web討論型授業 予定表 | 11 |
| ● 選択授業 予定表 | 12 |
| ● 募集要項 | 17 |
| ● スタッフ紹介 | 18 |
| ● 教科書の紹介 | 26 |

イラスト：江川満菜美



ごあいさつ



本邦には現在約30万人の医師がおり、そのほとんどがキャリアのどこかで教育に関わります。例えば大学で働く教員の先生は学生や院生の教育に、臨床研修病院で働く先生は初期研修医指導に、開業して診療所で働く先生は患者教育に。ただ医学部では「教える」ということについて学ぶ機会はほとんどありません。そうすると、どうしても「自分が教わった方法」で教えることになりがちなのですが、多くの先生がその「自分が教わった方法」でよいのだろうかと感じたまま、教育に関わっているという現状があります。

その意味で多様な教育方法を知って教育活動の幅を広げることは、非常に意義があります。また「なぜ教えるのか？」や「何を教えるべきなのか？」といった問いに対しても、医学教育学は一定の理論的枠組み（レンズ）を与えてくれます。本プログラムを受講される皆さんには、そのレンズを使って自分自身の教育を省察（振り返りともいいます）し、教育活動の幅を広げてもらいたいと思っています。

医学教育学の考え方の一つに「教え方に唯一解はない」というものがあります。別な言葉を使えば「Bestな教育は存在しない」という言い方もできる。学生や研修医の数、彼らのやる気、教える内容、自分の調子、部屋の温度など、様々なものに教育活動は影響を受けます。教育に関わる者はそのような状況を全て加味しながら、どのようにしたら自分が伝えたいと思っている内容を学んでもらえるのか、と問い続けるしかありません。その際に、本プログラムが提供するレンズが皆さんの視野を広げるという形で一助となることを心から願っています。

名古屋大学総合医学教育センター 教授
プログラム責任者

錦織 宏



本プログラムの思想・哲学

1. 医療・教育の実践を通して他者貢献「感」を得る
2. 多様性を重視する（社会構成主義>実証主義）
3. 実証主義文化圏である医学と社会構成主義文化圏である教育学を適切に行き来する（プラグマティズム。適度に「よい～」について問う）
4. 自己省察・自己評価を重視する（可能な限り性善説）
5. 思考停止しない（なぜ？を問い続ける）
6. 現場での行動を重視する（行動する知識人である）
7. 対話と討論を重視し、アウトカムと同様にプロセスも重視する（教育のアウトカムを検証するには遠視眼的な視点が求められるので）
8. 医療・教育を「社会的共通資本」として捉え、暴走する新自由主義と正当に対峙する
9. 難しいことを簡単に伝える（決して、簡単なことを難しくしない）
10. 以上の思想・哲学を過度に他人に押し付けない



本プログラムが考える 「よい医学教育者」に求められる能力

前ページの思想・哲学を持って……

| | | |
|--|---|----|
| よい教育法を実践できる | 教育と学習 Teaching and Learning | TL |
| よいカリキュラムを開発できる | カリキュラム開発 Curriculum Development | CD |
| よい評価法を計画・実施できる | 学習者評価 Assessment | A |
| 組織を改革することができる | リーダーシップ・マネジメント Leadership and Management | LM |
| 学ぶという行為について深く考えることができる | 教育哲学 Philosophy | PH |
| Information Technology (IT) を用いた 学習環境を構築できる | 情報工学 Information Technology | IT |
| 異文化・他者を理解することができる | 文化人類学 Cultural Anthropology | CA |
| 医学教育研究を実施できる | 医学教育研究 Research | RE |
| 上記を統合できる | 医学教育学総論 General | GE |
| その他 | Others | OT |





医学教育学カリキュラム ユニット一覧

TL

教育と学習

Teaching and Learning

- TL1 小グループ学習のファシリテーション・反転授業 参1
- TL2 成人教育入門 前W
- TL3 シミュレーション教育ことはじめ
—デザインを考える 参2
- TL4 シミュレーション教育ことはじめ
—デブリーフィングを考える 参2
- TL5 ベッドサイドティーチングと
Workplace-based learning 参2
- TL6 学生・研修医のメンタルサポート 後W
- TL7 シネメデューション①
—映像の持つ力とその教育への応用 参3
- TL8 PBL—理論的美しさと日本での実質的破綻
- TL9 シネメデューション②
—シネマナイトの体験からナラティブの語りへ
- TL10 TBL—教育資源を考えた
インタラクティブティーチングの一型
- TL11 守破離という学び方と師匠・弟子関係
- TL12 カリスマ講師的講義法と予備校教育の現在
- TL13 スタディガイドと教科書
—双方向性を書くということ
- TL14 よい指導医像
—自身の教育スタイルを知って強みを生かす
- TL15 シネメデューション番外編
- TL16 モチベーション理論をかじる

CD

カリキュラム開発

Curriculum Development

- CD1 カリキュラムを作る・壊す
—自由な学びの場の構築 前W
- CD2 カリキュラム評価と有名臨床研修病院の意味 後W
- CD3 インストラクショナル・デザインで斬る 参3
- CD4 地域基盤型医学教育—理論と実践 後W
- CD5 多職種連携教育—医師がもつ特権とは？
- CD6 データは医学教育をどのように変えうるか（教学IR入門） 後W
- CD7 アウトカム基盤型医学教育と医学教育の
ビジネスモデル
- CD8 必修と選択
—最低限を設定して期待しすぎないということ
- CD9 認証評価と教育カリキュラム標準化の功罪

A

学習者評価

Assessment

- A1 関係性から見るフィードバックと承認欲求 参1
- A2 評価方法を設計する 前W
- A3 診療現場での間主観的な評価
—責任ある主観とポートフォリオ
- A4 Workplace-Based Assessment
評価者トレーニングとルーブリック 参3
- A5 合否判定基準と再試験の在り方 参3
- A6 EPA (Entrustable Professional Activity)
と臨床教育
- A7 実技試験の強みと弱み
—OSCEを計画して実施して（そして疲れる）
- A8 筆記試験（Multiple Choice Questionなど）
の作り方
- A9 テスト理論の基礎

LM

リーダーシップ・マネジメント

Leadership and Management

- LM1 組織におけるマネジメントを考える 参1
- LM2 経験学習とリーダーシップ開発 前W
- LM3 医学教育とリーダーシップ&マネジメント 後W
- LM4 医療安全と医学教育 後W

PH

教育哲学

Philosophy

- PH1 医学教育における省察と構成主義
—唯一解のない世界へようこそ 参1
- PH2 医師はなぜ患者のために働くのか？
—新自由主義時代の医師のプロフェッショナリズム 後W
- PH3 人生と時間と学び-生涯教育とHolistic教育 後W
- PH4 他者貢献感と共同体感覚—アドラー心理学の教え
- PH5 教育における権力
—フーコーとブルデューから読み解く
- PH6 古典に学ぶ医学教育
- PH7 医学教育における正しさの闇 参3

IT

情報工学

Information Technology

- IT1 LMS (Learning Management System) のイロハと本プログラムで使用するITツール 参1
- IT2 医学教育者のためのAI時代の教育設計：デジタル・テクノロジーの活用とAI耐性の構築 参2
- IT3 SNS/YouTube時代におけるプレゼンテーション技法
- IT4 電子ポートフォリオ
- IT5 Computer-based testの今とこれから

CA

文化人類学

Cultural Anthropology

- CA1 文化人類学と医学教育—医学教育の文化的社会的文脈 前W
- CA2 異分野の教育（仮） 参2
- CA3 行動科学・社会科学の教育

RE

医学教育研究

Research

- RE1 医学教育を科学する—社会医学としての医学教育学とその研究 前W
- RE2 リサーチクエストを立てる
- RE3 量的研究（1）—アンケート調査の計画・実施とデータ分析
- RE4 量的研究（2）—量的データの統計解析（基本編）
- RE5 質的研究（1）—SCATによる質的データ分析
- RE6 質的研究（2）—エスノグラフィー入門
- RE7 質的研究（3）—Delphi法とNominal Group法
- RE8 医学教育研究のStrategy—倫理審査・研究費・投稿雑誌

GE

医学教育学総論

General

- GE1 自己紹介と教育実践のプレゼンテーション 参1
- GE2 医学教育と医学教育学—現場至上主義と概念化することの意味 参1
- GE3 教育実践と中間振り返りのプレゼンテーション 参2
- GE4 Faculty Development 後W
- GE5 修了時プレゼンテーション 参3
- GE6 ティーチングポートフォリオと教育業績評価

OT

選択

Others

- OT1 同窓会企画
- OT2 日本の医学教育関連組織—どこで誰が何を決めているのか？ 後W
- OT3 歴史上の医師と対話する
- OT4 オンライン外科教育
- OT5 気候変動と医学教育

AM

他の団体が主催する企画で本プログラムの単位として認められるもの

Academic Meeting

- AM100 日本医学教育学会大会 [4]
- AM101 岐阜大学MEDCの主催するセミナーとワークショップ [4]
- AM102 欧州医学教育学会 (AMEE) [8]
- AM103 アジア太平洋医学教育学会 (APMEC) [8]
- AM104 米国医学教育学会 (AAMC) [8]

※ [4] [8] の数字は授業時間を表します





本プログラムにおける基本的な学習・教育法

- 参加者は
- 事前に課題図書を読んでくる
 - 事前課題をやってくる（自分自身の経験を言語化しておく）
 - 当日は、他人の話をよく聞き、そして積極的に、自分自身の意を他人にわかるように伝える（＝討論する）
 - 知的に愉しく学ぶ
- 入れ子構造 「新しい教育方法」で「教育方法を学ぶ」という入れ子構造の中で様々な視点を持ち、深い学びへつなげる
- 対話を大事に 対話やコミュニケーションによって体験を振り返り言語化することで教育実績を見える化してゆく



ラーニングマネージメントシステム 『Google classroom』について

FCME（ふくみん）では、Google社の提供する学習支援システムGoogle classroomを使用します。

このシステムでは、授業の資料や提出課題などをアップロードしたり、ダウンロードしたりできます。

FCMEに関する情報（授業資料、発表資料、レポートなど）は、このGoogle classroom上にアップロードされ、必要に応じて、適宜、講師と受講生に共有や課題返却がされます。また、動画教材等はリンクからYouTubeへ誘導し、視聴いただく形式をとります。

詳細についてはマニュアル配布と対面型授業でお伝えいたします。FCMEで利用するシステムの使い方や機能などで、分からないことや困ったことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

受講生の声と授業風景



参加した12名が、卒前教育から卒後教育まで様々な悩みを抱えておられた。それを解決するために真摯に相談にのってくれるMentorと同期の仲間がいることが分かった。

WEBで初対面であったにも関わらず、受講生も活発に発言できた。その環境を整えて下さったことがよかった。

皆さんの背景を少し想像できたのと、議論すべき課題が見えやすくなった点で、言語化することの重要性が感じられました。

それぞれの人となり伝わってきたこと。似たような悩み、全く新しい視点に出会えました。

オンラインで発表するのは初めてで新鮮でした。

本編もちろんですが、チャットがとてもためになりました。



様々な体験をしています

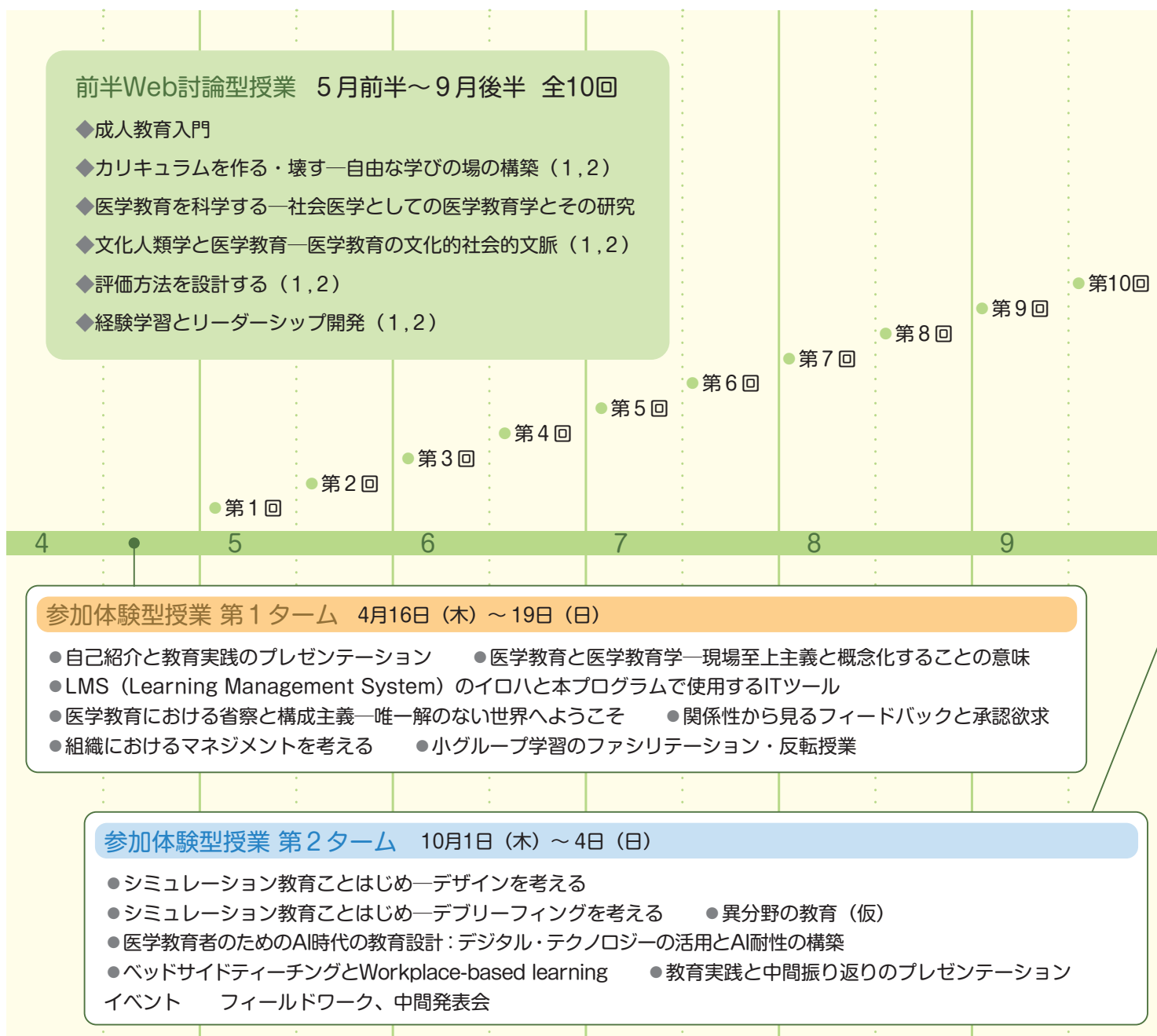


参加体験型授業について



- 年3回（1ターム4日間。木・金・土・日に開講）
- 第1ターム：4月16日（木）～19日（日）@名古屋
第2ターム：10月1日（木）～4日（日）@京都
第3ターム：3月11日（木）～14日（日）@神奈川
- 社会状況によって、オンラインで行う場合があります。

年間カレンダー



- 月に2回（前半・後半）、1回2時間、原則講師1～3名と受講生6名で開催します。
- Web討議システムのトラブル時は指定の連絡先にご連絡ください。
- Web討議システムはZoom(<http://zoom.us/jp-jp/meetings.html>)を予定しています。こちらの会議リンクをその都度提示いたしますのでご自身で指定の時間にアクセスしてください。



後半Web討論型授業 10月前半～2月後半 全10回

- ◆学生・研修医のメンタルサポート
- ◆日本の医学教育関連組織—どこでだれが何を決めているのか？
- ◆医師はなぜ患者のために働くのか？—新自由主義時代の医師のプロフェッショナリズム
- ◆カリキュラム評価と「有名臨床研修病院」の意味
- ◆医学教育とリーダーシップ&マネジメント ◆医療安全と医学教育
- ◆地域基盤型医学教育—理論と実践
- ◆Faculty Development ◆人生と時間と学び—生涯教育とHolistic教育
- ◆データは医学教育をどのように変えうるか（教学IR入門）

選択授業 5月～2月（時期未定）全9回予定

- ◆他者貢献感と共同体感覚—アドラー心理学の教え
- ◆テスト理論の基礎—見えないものを測る—
- ◆シネメデューケーション番外編
- ◆多職種連携教育—インタープロフェッショナルアイデンティティはどのように形成されていくのか
- ◆モチベーション理論をかじる
- ◆オンライン外科教育
- ◆気候変動と医学教育—医学教育の中に社会からのニーズを組み込むには
- ◆歴史上の医師と対話する
- ◆PBL—理論的美しさと日本での実質的破綻

参加体験型授業 第3ターム 3月11日（木）～14日（日）

- Work-Based Assessment 評価者トレーニングとルーブリック
- 合否判定基準と再試験の在り方
- シネメデューケーション—映像の持つ力とその教育への応用
- インストラクショナル・デザインで斬る
- 医学教育における正しさの闇
- 修了時プレゼンテーション
- イベント 修了時発表会、修了式

4月16日(木)

8:30~10:30 | 開講式・事務連絡(全員) 自己紹介とオリエンテーション

10:45~15:45 | **GE1** 自己紹介と教育実践のプレゼンテーション(木村武/森下/錦織)(昼食)

16:00~18:15 | **GE2** 医学教育と医学教育学—現場至上主義と概念化することの意味(錦織)

4月17日(金)

8:30~12:45 | **IT1** LMS(Learning Management System)のイロハと
本プログラムで使用するITツール(梶田/近藤)
(昼食)

14:00~18:15 | **PH1** 医学教育における省察と構成主義—唯一解のない世界へようこそ(種村/森下/木村武)

4月18日(土)

8:30~12:45 | **A1** 関係性から見るフィードバックと承認欲求(木村武/佐野)
(昼食)

14:00~18:15 | **LM1** 組織におけるマネジメントを考える(高尾/山田圭/本間)

4月19日(日)

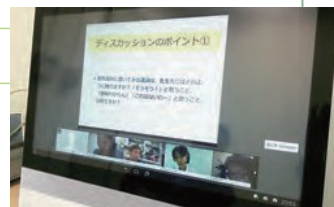
8:30~12:45 | **TL1** 小グループ学習のファシリテーション・反転授業(黄/染谷)

前半 Web討論型授業



※実施日は各グループにて調整

| | | | |
|------|------|---------------|---|
| 第1回 | 5月前半 | 月 日 () : ~ : | TL2 成人教育入門 (種村) |
| 第2回 | 5月後半 | 月 日 () : ~ : | CD1 カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場の構築 (1) (宮地由/松下) |
| 第3回 | 6月前半 | 月 日 () : ~ : | CD1 カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場の構築 (2) (宮地由/松下) |
| 第4回 | 6月後半 | 月 日 () : ~ : | RE1 医学教育を科学する—社会医学としての医学教育学とその研究 (菊川) |
| 第5回 | 7月前半 | 月 日 () : ~ : | CA1 文化人類学と医学教育—医学教育の文化的社会的文脈 (1) (飯田/宮地純) |
| 第6回 | 7月後半 | 月 日 () : ~ : | CA1 文化人類学と医学教育—医学教育の文化的社会的文脈 (2) (伊藤/宮地純) |
| 第7回 | 8月前半 | 月 日 () : ~ : | A2 評価方法を設計する (1) (斎藤/松山/橋本) |
| 第8回 | 8月後半 | 月 日 () : ~ : | A2 評価方法を設計する (2) (斎藤/松山/橋本) |
| 第9回 | 9月前半 | 月 日 () : ~ : | LM2 経験学習とリーダーシップ開発 (1) (高尾/山田圭/本間) |
| 第10回 | 9月後半 | 月 日 () : ~ : | LM2 経験学習とリーダーシップ開発 (2) (高尾/山田圭/本間) |



10月1日(木)

8:30~12:45 | **TL3** シミュレーション教育ことはじめ—デザインを考える〈及川/田中/染谷/高見〉
(昼食)

14:00~18:15 | **TL4** シミュレーション教育ことはじめ
—デブリーフィングを考える〈及川/田中/染谷/高見〉

10月2日(金)

8:30~12:45 | **CA2** 異分野の教育(仮)(1)〈錦織/村松〉
(昼食)

14:00~18:15 | **CA2** 異分野の教育(仮)(2)〈錦織/村松〉

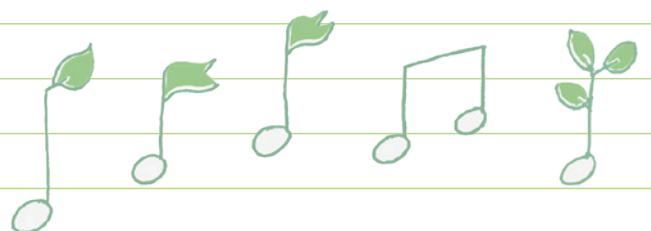
10月3日(土)

8:30~12:45 | **IT2** 医学教育者のためのAI時代の教育設計: デジタル・テクノロジーの活用とAI耐性の構築〈片岡/近藤〉
(昼食)

14:00~18:15 | **TL5** ベッドサイドティーチングとWorkplace-based learning〈鈴木富/木村武/錦織〉

10月4日(日)

7:45~12:00 | **GE3** 教育実践と中間振り返りのプレゼンテーション〈木村武/森下/錦織〉



※実施日は各グループにて調整

| | | | |
|------|-------|---------------|---|
| 第11回 | 10月前半 | 月 日 () : ~ : | TL6 学生・研修医のメンタルサポート〈松本〉 |
| 第12回 | 10月後半 | 月 日 () : ~ : | OT2 日本の医学教育関連組織—どこでだれが何を決めているのか?〈小西〉 |
| 第13回 | 11月前半 | 月 日 () : ~ : | PH2 医師はなぜ患者のために働くのか?—新自由主義時代の医師のプロフェッショナリズム〈錦織〉 |
| 第14回 | 11月後半 | 月 日 () : ~ : | CD2 カリキュラム評価と「有名臨床研修病院」の意味〈林/遠藤〉 |
| 第15回 | 12月前半 | 月 日 () : ~ : | LM3 医学教育とリーダーシップ&マネジメント〈高尾/山田圭/本間〉 |
| 第16回 | 12月後半 | 月 日 () : ~ : | CD4 地域基盤型医学教育—理論と実践〈高村/太田〉 |
| 第17回 | 1月前半 | 月 日 () : ~ : | LM4 医療安全と医学教育〈田中/岸〉 |
| 第18回 | 1月後半 | 月 日 () : ~ : | GE4 Faculty Development〈木村武/磯部〉 |
| 第19回 | 2月前半 | 月 日 () : ~ : | PH3 人生と時間と学び—生涯教育とHolistic教育〈種村/木村武〉 |
| 第20回 | 2月後半 | 月 日 () : ~ : | CD6 データは医学教育をどのように変えうるか(教学IR入門)〈山田剛/尾上〉 |



3月11日 (木)

8:30~12:45 | **A4** Workplace-Based Assessment 評価者トレーニングとルーブリック (錦織/斎藤/木村武)
(昼食)

14:00~18:15 | **A5** 合否判定基準と再試験の在り方 (錦織/斎藤/木村武)

3月12日 (金)

8:30~12:45 | **CD3** インストラクショナル・デザインで斬る (鈴木克/高見)
(昼食)

14:00~18:15 | **TL7** シネメデュケーションー映像の持つ力とその教育への応用 (染谷/森下)

3月13日 (土)

8:30~12:45 | **PH7** 医学教育における正しさの闇 (錦織/板井)
(昼食)

14:00~18:15 | **GE5** 修了時プレゼンテーション (1) (木村武/森下/錦織)

3月14日 (日)

8:30~12:45 | **GE5** 修了時プレゼンテーション (2) (木村武/森下/錦織)

13:00~14:00 | 修了式





選択授業

選択

※実施月に変更となる可能性あり
※実施日は約1か月前に通知

| | | | |
|-----|-----|---------------|--|
| 第1回 | 5月 | 月 日 () : ~ : | 他者貢献感と共同体感覚－アドラー心理学の教え〈錦織〉 |
| 第2回 | 6月 | 月 日 () : ~ : | テスト理論の基礎－見えないものを測る－〈斎藤〉 |
| 第3回 | 7月 | 月 日 () : ~ : | シネメデュケーション番外編〈染谷／森下〉 |
| 第4回 | 8月 | 月 日 () : ~ : | 多職種連携教育－インタープロフェッショナルアイデンティティはどのように形成されていくのか〈春田〉 |
| 第5回 | 10月 | 月 日 () : ~ : | モチベーション理論をかじる〈木村武〉 |
| 第6回 | 11月 | 月 日 () : ~ : | オンライン外科教育〈高見／磯部〉 |
| 第7回 | 12月 | 月 日 () : ~ : | 気候変動と医学教育－医学教育の中に社会からのニーズを組み込むには〈佐方／梶〉 |
| 第8回 | 1月 | 月 日 () : ~ : | 歴史上の医師と対話する〈森下／錦織〉 |
| 第9回 | 2月 | 月 日 () : ~ : | PBL－理論的美しさと日本での実質的破綻〈清水／松本〉 |



履修証明プログラム

FCME (Foundation Course for Medical Education)

参加体験&Web討議混合型プログラム

現場で働く教員・指導医のための 医学教育学プログラム—基礎編

■授業科目 (予定)

- カリキュラム開発 (例: カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場の構築)
- 教育哲学 (例: 医学教育における省察と構成主義—唯一解のない世界へようこそ)
- 学習者評価 (例: 診療現場での間主観的な評価—責任ある主観とポートフォリオ)
- 教育と学習 (例: シミュレーション教育ことはじめ—デザインを考える)
- リーダーシップとマネジメント (例: 医学教育とリーダーシップ&マネジメント)

■受講形態

年3回の参加体験型授業 (1回4日間。2027年4月、9～10月、2028年3月の木・金・土・日を予定) と、月に2回のWeb討議型授業 (1回2時間、日程は要相談) による1年間のプログラムです。

■本プログラムの受講要件

- 原則として卒後6年目以上の指導経験のある医師
 - 患者さんはもとより、医学生・研修医、また他の医療職に対しても愛情を持って接していること
 - 利他的な行為としての教育に関心を持っていること
 - 本プログラム自体の構築・開発に協働して参加する意思のあること
 - 年3回の参加体験型授業に出席するため、下記の予定を確保できる方
 - ・採用年度の4月・9～10月・3月のそれぞれ4日間 (原則として全日程の出席を求めます)
- ※オンラインでの実施となる場合もございます。

■受講費用

約50万円

■修了要件

1. Web討論型授業と参加体験型授業を合わせて1年間で120時間以上履修すること。
2. 各科目での評価で合格すること (可否判定はレポートの内容・討論での発言の質および量・自身の教育活動の映像分析内容などで行う予定です)。

修了者には大学から正式な履修修了証が授与されます (学位は取得できません)。

■応募方法

- 定員 10名程

- 2027年度受講生 募集期間
2026年11月頃の予定

■選考方法

出願書類 (必要に応じて面接) による選考を行います。

- 出願書類 (書式をダウンロードできます)

下記5点を郵送ください。(封筒には「FCME応募」と朱書きすること)

書き方については「出願書類について」をご参照ください。

- ・履歴書
- ・出願許可証 (受講同意書)
- ・推薦状
- ・志望動機と修了後の展望
- ・医学教育に関する実践記録

詳しくは、ウェブサイトでご確認ください。

スタッフ紹介

- 現在の所属
- 卒業大学 卒年
- 専門診療科・専門領域
- ふくみんへの参加動機・期待することなど



木村 武司 (きむら たけし)

名古屋大学医学部附属病院
卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
福島県立医科大学医学部 平成19年
総合内科・小児科・医学教育学



FCME (ふくみん) 3期卒業生であり、4期から運営に関わっています。「ふくみんを愛し、(自称)ふくみんに愛された男」とは私のこと！ふくみんのわからないこと、不安なこと、気軽に相談してください。いざ医学教育という広く深い分野へ！私が皆さんを楽しくガイドします。

佐方 初奈 (さかた はつな)

名古屋大学大学院医学系研究科
地域医療教育学講座・総合医学教育センター
横浜国立大学大学院 博士後期課程 平成31年
環境教育・プラネタリーヘルス・地域医療



専門は環境学の非医療従事者です。最近ではメディアで気候変動と医療の関係について取り上げられることが少しずつ増えてきました。私が担当させていただく選択授業では「プラネタリーヘルス」をキーワードとして、グローバルに、そしてローカルに、気候変動と医療について議論できることを楽しみにしております。

磯部 真倫 (いそべ まさのり)

岐阜大学大学院医学系研究科
産科婦人科学 教授
山形大学 平成14年
産科婦人科・腹腔鏡手術



FCME 4期生です。FCME修了後に医学教育を専門とする産婦人科医のキャリアを歩み、令和5年から岐阜大学で医学教育を専門とする臨床系教授として勤務しています。より臨床に近く、現場に近い視点で医学教育の楽しさを伝えたいと思います。

錦織 宏 (にしごり ひろし)

名古屋大学大学院医学系研究科
総合医学教育センター 教授
名古屋大学医学部 平成10年
医学教育学・総合診療医学



内科医／総合診療医であり、社会医学の一分野である医学教育学分野の研究者です。ふくみんも12年目に入り、今年は念願の大学院修士課程を設立することができました。唯一解のない医学教育学という分野の研究者として日々過ごすことで、深く考えたり、新しい視点を学べたりすることに、感謝しています。皆様との対話を楽しみにしています。

森下 真理子 (もりした まりこ)

名古屋大学大学院医学系研究科
総合医学教育学センター・地域医療教育学講座／
京都大学附属病院医療安全管理部 客員研究員
京都府立医科大学 平成16年
家庭医療



診療所で家庭医の教育に関わり、その後医学教育研究を学び、大学病院の医療安全管理部で働いてきました。地域の診療所から大学病院まで、様々な場で展開される医療・医学の姿を見ることで医学教育について考え続けることができれば、と思っています。皆様と共に学ぶことを楽しみにしています。

飯田 淳子 (いいた じゅんこ)

神奈川大学人間科学部 教授
総合研究大学院大学文化科学研究科
文化人類学・医療人類学



20年以上、医療系の大学に勤めていました。その間、「他者理解の学問」である文化人類学がさまざまな形で医学教育学と協働できることを学びました。文化人類学が組み込まれていることは、医学教育学プログラムとしてFCMEのユニークな点の一つです。受講生の皆さんとの対話を通じて、新たな学びを体験できることを楽しみにしています。

板井 孝壱郎 (いたい こういちろう)

宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科 教授
宮崎大学医学部医学科生命・医療倫理学分野 教授
宮崎大学医学部附属病院 臨床倫理部 部長/病院長補佐
京都大学大学院文学研究科博士後期課程倫理学専修 平成9年
生命・医療倫理学



神戸で生まれて大学から京都で暮らし、学生時代は「哲学・倫理学」を専攻していましたが、大学院で「医療倫理」を専門とするようになり、2002年から宮崎医科大学（現：宮崎大学医学部）に赴任して以来「宮崎県民」となって20年以上が経ち、人生の中で宮崎が一番長く生活しているところになりました。最近ハマっていることはキャンピングカー（災害時のシェルター・カーとなることを想定してます）です。「刷り込まれた道徳観や絶対善・正義という名の暴力」を相対化できるような「誠実さ」について、皆さんといっしょに考察できるのを楽しみにしています！

伊藤 泰信 (いとう やすのぶ)



北陸先端科学技術大学院大学 (JAIST) 教授
藤田医科大学 医学部 客員教授
金沢大学 医薬保健学域 基礎医学教授 (学外)
九州大学大学院比社会文化研究科博士課程
文化人類学・知識人類学・医療エスノグラフィ

自分たちの“当たり前”の発想から自由になること・抜け出すことは、なかなか容易ではありません。文化人類学的な視点、エスノグラフィという方法論はそれを解きほぐす(“リフレーミング”する)のに優れています。それぞれ違った視点を持つ皆さんと学び合えることを楽しみにしています。

遠藤 周 (えんどう あまね)



順天堂大学医学部医学教育研究室 / 小児科学講座
順天堂大学医学部 平成16年
小児科学

FCME6期生です。大学の医学教育部門半分、小児科半分、で仕事をしております。「教育」を考えることは、自分を成長させてくれるものだと考えています。皆様と、楽しみながら、時に苦しみながら、教育について一緒に考えていきたいと思っております。

及川 沙耶佳 (おいかわ さやか)



秋田大学大学院医学系研究科
先進デジタル医学・医療教育学講座 特任教授
旭川医科大学医学部 平成18年
救急科・医学教育学

ふくみんでは、受講生の皆さんのディスカッションから多くの気づきをもらい、とても楽しく参加しています。シミュレーションのセッションでは頭だけではなく、体も動かしながら受講生の皆さんとともに、多くの学びを作り上げることができればと思います。

太田 龍一 (おおた りゅういち)



雲南市立病院 総合診療科
近畿大学病院 腫瘍内科
島根大学医学部附属病院 膠原病内科
大阪市立大学医学部 平成22年
総合診療・腫瘍内科・膠原病内科・地域医療・医学教育

FCME2期生として本プログラムに参加し、医学教育の理論と実践について体系的に学ぶことができました。現在は、地域医療の現場で総合診療を実践しながら、大学病院において腫瘍内科および膠原病内科の診療にも携わり、臓器別専門診療と地域医療をつなぐ役割を担っています。これまでの臨床・教育・研究の経験をもとに、地域医療における教育の意義と実践について、皆様とともに考えていきたいと思っています。本プログラムを通じて、互いに学び合いながら、地域医療と医学教育の発展に貢献できることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いたします。

尾上 剛史 (おのうえ たけし)



名古屋大学医学部附属病院 卒後
臨床研修・キャリア形成支援センター 病院講師
糖尿病・内分泌内科

FCME7期生です。糖尿病・内分泌内科医として大学で働きながらIRを担当しています。皆さんと一緒に色々学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。

梶 有貴 (かじ ゆうき)



国際医療福祉大学総合診療医学 医学部助教
筑波大学医学群 平成24年
総合診療医学

FCME11期生です。市中病院で総合診療医として働きながら、新設の大学医学部および診療看護師 (NP) 養成の大学院で総合診療関連の授業を担当しています。変わりゆく地球環境を前に、限りある医療資源をいかに有効に使っていくか、それを次世代に伝えていくのかについて関心を持っています。答えのない問題をFCMEのみなさんと一緒に悩み勉強していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

梶田 将司 (かじた しょうじ)



名古屋大学情報基盤センター 教授
名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻
博士課程後期課程
平成7年単位修得退学

大学における教育・学習のための情報環境を創ってます。教育の本質は、教員と学生のインタラクションで、ICTを通じてどう支援するかを研究開発しています。classroomを通じてその成果の一部をご体験頂ければ幸いです。

片岡 裕貴 (かたおか ゆうき)



名古屋大学医学部附属病院
卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
東北大学医学部医学科 2007

臨床研究をやったことがない臨床家が臨床研究をできるようになる方法について研究しています。時間がない臨床家が、効率よく研究を実施するにはAIの活用は必須です。そのためにどうすればいいか、一緒にディスカッションできるのを楽しみにしています。

菊川 誠 (きくかわ まこと)

九州大学大学院医学研究院医学教育学部門 准教授
鹿児島大学 平成9年
医学教育学



参加者の皆さんと医学教育について語ることに、また医学教育研究についての議論を楽しみにしております。

岸 美紀子 (きし みきこ)

群馬大学大学院医学系研究科
医学教育開発学分野 教授
群馬大学 平成7年
医学教育学



ふくみに参加される皆様と、様々な視点を持ち寄りながら医学教育について話し合えることを楽しみにしております。

黄 世捷 (こう せいしょう)

聖マリアンナ医科大学医学教育文化部門
医学教育研究分野 准教授
熊本大学大学院社会文化科学教育部教授システム学
(博士前期課程) 愛媛大学医学部 平成17年
循環器内科・インストラクショナルデザイン



FCME 4期生です。自分が臨床現場で行っている医学教育に不安を覚え、FCMEの門を叩きました。現在は、「効果的・効率的・魅力的な教育」を実現するため、インストラクショナルデザインを学びながら、試行錯誤しております。
一斉授業から脱却し、「教えない教育」を実践すべく、皆さんと共に学んでいきたいと思っております。よろしくお願いたします。

小西 靖彦 (こにし やすひこ)

順天堂大学医学教育研究室 特任教授
京都大学大学院医学研究科
医学教育・国際化推進センター 名誉教授
京都大学医学部 昭和57年
外科 (肝胆腎移植外科)



現場の医師が、医学教育について現場の感覚をもとに学ぶことを期待しています。医学教育の理論と実践の往復を楽しんでください。

近藤 猛 (こんどう たけし)

名古屋大学医学部附属病院
卒後臨床研修・キャリア形成支援センター
名古屋市立大学 (学士 (医学)) 2006
マーストリヒト大学 (修士 (医療者教育学)) 2021
総合診療科
総合診療・家庭医療・医学教育



総合診療科で働きながら教育に携わっております。
ITと教育の連携に興味を持って取り組んでいます。

斎藤 有吾 (さいとう ゆうご)

新潟大学 教育基盤機構 教学マネジメント部門 准教授
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了
京都大学博士 (教育学) 平成30年
教育評価論・高等教育論



京大の高等教育研究開発推進センター出身で、専門は高等教育論、教育評価・測定論です。現在は国立大学で教学マネジメントの業務に携わっております。
前職はコメディカルを養成する医療系の単科大学でしたが、医学に関しては本当に素人です。
一緒に議論させていただきながら、共に学べることを楽しみにしております。

佐野 樹 (さの いつき)

三重県立こころの医療センター 診療科 医長
名古屋大学大学院医学系研究科
札幌医科大学 平成17年
精神科・多職種連携教育・精神医学・心理学



他者を理解するとはどういうことなのか、物心ついた頃から悩み始め、ついには精神科医としてそれを仕事にし、それでもあきらまず研究者にまでなった私です。普段は、三重県津市の公立精神科病院で精神科医、及び研修指導者として働きつつ、名古屋大学で医学教育研究にも携わっています。関心領域は、多職種連携における他者理解、社会的公正教育などで、最近ではマンガを用いた多文化教育にも携わっています。

清水 郁夫 (しみず いくお)

千葉大学医学部 医学教育研究室 特任教授
信州大学医学部 平成16年
内科学・医学教育学



内科臨床医が教育に興味を持って、現在は医学部のカリキュラム改革などに関わっております。FCMEの場で皆様と議論できることを楽しみにしております。一緒に学びましょう。

鈴木 克明 (すずき かつあき)

武蔵野大学響学開発センター長・教授
米国フロリダ州立大学大学院教育学研究科
博士後期課程
昭和62年Ph.D (InstructionalSystem)
教育工学



本プログラムの思想「難しいことを簡単に伝える（決して、簡単なことを難しくしない）」を旨として率直にわかりやすくお答えするように最善を尽くしますので、答え甲斐のある問を持ち込んでください。IDの思想を「過度に」押し付けますので、全力で抵抗してください。

鈴木 富雄 (すずき とみお)

大阪医科薬科大学 地域総合医療科学寄付講座 特任教授
大阪医科薬科大学医学部附属病院総合診療科 科長
大阪医科薬科大学 医学部 総合診療医学教室 教授
名古屋大学医学部 平成3年
医学教育学・総合診療医学



卒業以来ジェネラルな診療と教育に一貫して関わってまいりました。このプログラムで皆さんと共に学べることを楽しみにしています。

染谷 真紀 (そめや まき)

京都大学医学部附属病院
総合臨床教育・研修センター 助教/シミュレーションセンター長
筑波大学 平成21年
小児救急・集中治療



小児科のワークショップなどを通して医学教育に興味を持ち、4期生として受講しました。人材育成・シミュレーションなどに特に興味を持っています。ともに学ばせていただきたいと思っています。よろしくお願ひします。

高尾 義明 (たかお よしあき)

京都産業大学経営学部 教授
京都大学教育学部教育社会学科
京都大学大学院経済学研究科博士後期課程
経営学 (経営組織論・組織行動論)



経営学はみなさんにとってあまりなじみがないと思いますが、医療機関の中で教育・研究を実際に進めていくために有益な知識源になりうると思います。みなさんとのインタラクティブな授業を楽しみにしています。

高見 秀樹 (たかみ ひでき)

名古屋大学医学部附属病院 消化器外科2病院講師
卒後臨床研修キャリア形成支援センター
名古屋大学 平成15年
消化器外科



医学教育を一から学びたい、と思ってふくみんへ参加しました。その結果本当にたくさんの事を学び、また、多くの仲間を得ることができました。まだまだこのラーニングコミュニティを拡げていきたいと思っています！

高村 昭輝 (たかむら あきてる)

富山大学医学教育学講座 教授
富山医科薬科大学 平成10年
小児科・総合診療科



いろんな価値観を持った皆さんとの出会いを期待しています。

田中 和美 (たなか かずみ)

群馬大学医学部附属病院
医療の質・安全管理部 部長
群馬大学 平成16年
医療の質・安全学



病院での医療安全管理に加え、医療の質と安全に関する卒前・卒後の教育に日々奔走しています。本プログラムでは、「医療安全と医学教育」を担当します。「安全で質の高い医療の提供者を育成すること」は、医療安全の専門家だけが担うものではありません。本プログラムを通して、一緒に取り組める仲間づくりができればいいなと思っています。

田中 淳一 (たなか じゅんいち)

東北大学大学院医学系研究科
医学教育推進センター 教授
新潟大学 平成16年
総合診療科・内科・呼吸器内科



FCMEの1期生です。2期以降、講師側として参加させていただきます。まだまだ学ぶことが多く、皆様と一緒に楽しんで学ばせていただければと思います。

種村 文孝 (たねむら ふみたか)

東洋学園大学人間科学部 准教授
新潟大学大学院現代社会文化研究科 博士後期課程
博士(教育学) 令和6年
生涯教育学



生涯教育学の観点から、専門職の学びや専門職と市民の協働などをテーマに研究してきました。医師が頼られ、人々が安心して医療と向き合える社会となるように、一般人の感覚も持ちながら医学教育を考えていけたらと思っています。

橋本 克彦 (はしもと かつひこ)

名古屋大学医学部附属病院
卒後臨床研修キャリア形成支援センター
救急集中治療科 病院助教
東京大学 平成22年
救急集中治療科



FCME10期生です。出身地である福島県の市中病院を主なフィールドとして、救急・麻酔・集中治療に携わっていましたが、ご縁を頂き2025年度から大学の医学教育分野に所属することになりました。受講生の皆さんと学びを深めていけたら幸いです。よろしくお願いいたします。

林 幹雄 (はやし みきお)

関西医科大学教育センター
川崎医科大学 平成18年
総合内科・家庭医療



FCME 1 期生です。学べば学ぶほど奥の深い分野ですが、皆様の教育実践を通じて一緒に学ばせて頂くのを楽しみにしています。

春田 淳志 (はるた じゅんじ)

慶應義塾大学医学部
医学教育統轄センター/総合診療教育センター
旭川医科大学 平成16年
総合診療



地域で総合診療・家庭医の経験をもちながら、現在は都内で外来・訪問診療をしながらも大学では総合診療の外来や卒前・卒後教育全般に関わっております。私の担当するのは選択授業の多職種連携教育ですが、皆さんとディスカッションしながら楽しく学べたら幸いです。よろしくお願いいたします。

本間 崇浩 (ほんま たかひろ)

聖マリアンナ医科大学 呼吸器外科 准教授
富山大学 平成16年卒
呼吸器外科



FCME 8 期生です。
「経験は時間、空間、個人を知るが故に、時間、空間、個人を超越する」
皆さんの個人的経験を最醇なるものに変えるFCMEで、一緒に学べることを楽しみにしています。

松下 佳代 (まつした かよ)

京都芸術大学 学習支援・教育開発センター長
京都大学 名誉教授
京都大学大学院教育学研究科
博士後期課程研究指導認定退学
教育方法学・大学教育学



大学教育を広く対象としていますが、医療系では、医学教育、歯学教育、理学療法教育を中心に共同研究をしてきました。チームを組んでいる宮地由佳先生や錦織先生、受講者のみなさんから教えてもらいながら、教えています。カリキュラムの見方をカチコチではなく柔らかくできれば、と思っています。

松本 寿弥 (まつもと ひさや)

名古屋大学学生支援本部
学生相談センター教育連携室 室長・学術主任専門職
オレゴン大学教養・理学部
京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程
京都文教大学大学院臨床心理学研究科博士前期課程
名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士後期課程
心理学・精神分析学・学生相談・組織コンサルテーション



心理職・組織コンサルタントとして学生支援の仕事をしています。メンタルヘルスと組織力動・システム論の観点から困難を抱える医学生・研修医のサポートについてご一緒に考えさせていただければ幸いです。

松山 泰 (まつやま やすし)

自治医科大学医学教育センター センター長/教授
自治医科大学医学部 平成13年
地域医療学・医学教育学



自治医大卒業後、へき地診療を経て、現在は母校の後輩育成に奮闘している毎日です。総合判定試験の運営や学生評価全般の改善に取り組んでいます。よろしくお願いいたします。

宮地 純一郎 (みやち じゅんいちろう)

名古屋大学大学院医学系研究科
地域医療教育学講座・総合医学教育センター
浅井東診療所

大阪大学医学部 平成17年

家庭医療学・医学教育学・医療人類学



名古屋大学の医学教育に携わりながら、滋賀県長浜市の山間部の診療所で現場の教育にも携わっています。医学教育学では、(医療人類学をはじめとした) 人文学・社会科学の教育、臨床推論の研究をしています。主に文化人類学のコンテンツを担当しています。どうぞよろしくお願いいたします。

宮地 由佳 (みやち ゆか)

岐阜大学医学部医学教育開発研究センター

新潟大学医学部 平成19年

家庭医療・緩和医療・医学教育学



皆様と一緒に深く、より広く学ばせて頂けるのを楽しみにしています！

村松 友佳子 (むらまつ ゆかこ)

名古屋大学医学部附属病院 小児科 /
ゲノム医療センター / 総合医学教育センター /
卒後臨床研修・キャリア形成支援センター

名古屋大学 平成12年

小児科



FCME 7 期生です。様々なご縁がありこの場にいます。異なる分野をつなぐ学びを、みなさんとできることを楽しみにしています。

山田 圭 (やまだ けい)

久留米大学医学部 医学教育研究センター 教授

久留米大学医学部 整形外科 (兼務)

久留米大学医学部 平成4年

整形外科・脊椎外科



FCME 4 期生です。FCME で学べたことは、医学教育に携わってきた中で大きな転換点となりました。異なる背景を持つメンバー同士で予想外の化学反応を一緒に体験し学んで行けることを非常に楽しみにしています。

山田 剛史 (やまだ つよし)

関西大学教育推進部 教授

神戸大学大学院 博士後期課程 平成17年

高等教育開発 青年心理学



期待していることは、医療現場に携わりながら医学教育学を学ぼうという意思をお持ちの先生方とお会いできること、みなさんの想いや考えに触れることができること、医学教育という文脈から高等教育を見ることで新たな発見・気づきが得られることなどです。



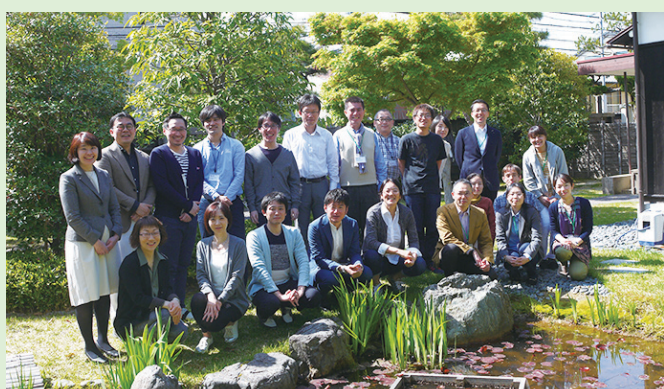
第1期受講生



第2期受講生



第3期受講生



第4期受講生



第5期受講生



第6期受講生



第7期受講生



第8期受講生



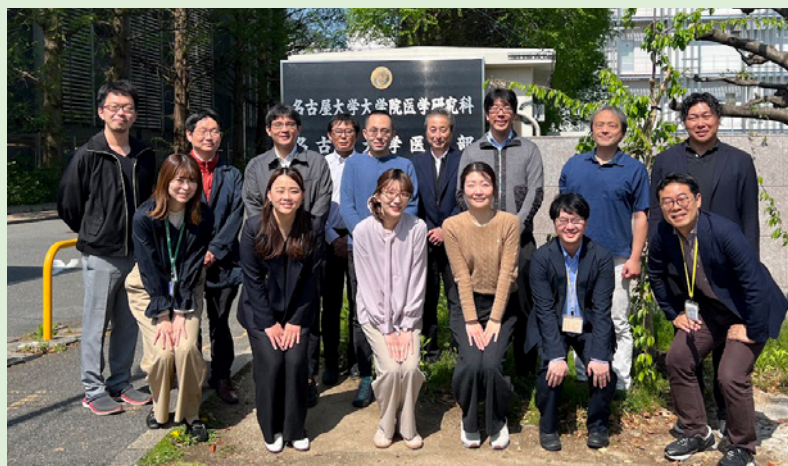
第9期受講生



第10期受講生



第11期受講生

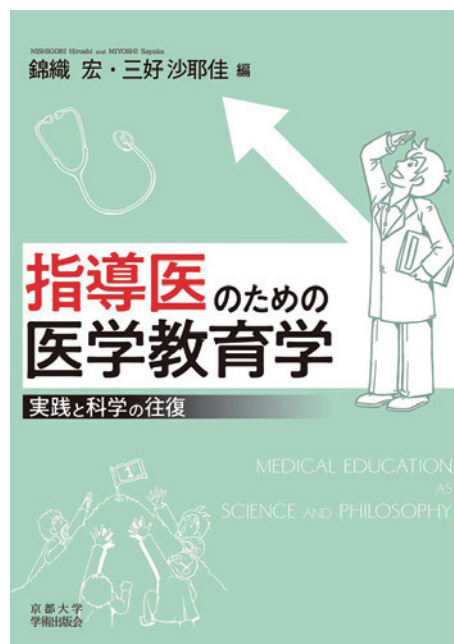


指導医のための 医学教育学

実践と科学の往復

錦織 宏・三好沙耶佳 編

A5判並製・390頁 定価：本体 3600円（税別）
ISBN 978-4-8140-0290-0



◆目次より
はじめに

- 1 General (GE) 医学教育学総論**
医学教育学とは？ ～医学教育を科学するという視点～
教育実践を他人に見える形にすること／医学教育と医学教育学
- 2 Teaching and Learning (TL) 教育と学習**
どのように教えるのか？ ～教え方や学び方に関する理論・モデル・考え方～
成人教育理論入門／小グループ学習におけるファシリテーションと空気を読むこと／ベッドサイドティーチングと実践共同体／シミュレーション教育とははじめ—デザイン／シミュレーション教育とははじめ—デブリーフィング／メンタリングと困った学生・研修医への対応／シネメデュケーション—映像の持つ力とその教育への応用／Problem-based learning—美しい理論がなぜ実践で破綻したのか？
- 3 Assessment (A) 学習者評価**
どのように評価するのか？ ～試験も含めた学習者評価の方法に関する理論・モデル・考え方～
キャラに合わせたフィードバックと承認欲求／ちゃんとした試験をすれば授業は要らない？／診療現場での間主観的な観察評価“できる”かどうかを知る—ポートフォリオを題材に／ルーブリックによる評価
- 4 Curriculum Development (CD) カリキュラム開発**
どのようにカリキュラムを作るのか？ ～カリキュラム開発に関する理論・モデル・考え方～
カリキュラムを作る・壊す—自由な学びの場を構築する／カリキュラム評価と有名臨床研修病院の意味／インストラクショナル・デザインと構造化の功罪／Entrustable Professional Activity—“信頼して任せられる”とは何か？
- 5 Leadership and Management (LM) リーダーシップ・マネジメント**
どのようにリーダーシップをとっていくか？ ～組織をまとめる際に知っておくべきこと～
変革プロセスとマネジメント・リーダーシップ／経験学習とリーダーシップ開発
- 6 Information Technology (IT) 情報工学**
ITを使った教育をどのように展開するのか？ ～オンライン教育の活用例やその歴史～
ITを使った学びのさまざま／Learning Management Systemのいろは／新型コロナウイルス感染症による医学教育の変化
- 7 Philosophy (PH) 教育哲学**
医師はなぜ教育に関わるのか？ ～なぜを問い続けること～
医学教育における省察と構成主義—唯一解のない世界へようこそ／武士道プロフェッショナルリズムとジェダイの哲学／現象学の医学教育学における可能性
- 8 Cultural Anthropology (CA) 文化人類学**
なぜ自分の施設ではうまくいく／いかないのか？ ～文化的社会的文脈を考えること～
医学教育の文化的社会的文脈／幼児教育から学ぶ／パーソナルスタイリストから学ぶ
- 9 General (GE) 医学教育学総論**
ふたたび医学教育学とは？ ～医学教育に関連する組織や、指導医養成について～
日本の医学教育関連組織—どこで誰が何を決めているのか？／Faculty Development—どうせやるなら“楽しく”教えよう
- 10 Research (RE) 医学教育研究**
医学教育学分野における研究とは？ ～巨人の肩の上に立って知見を積む～
医学教育を科学する—社会医学としての医学教育学とその研究

ふくみん受講生たちが考えたこと

おわりに

